

## 旧夕鉄車両、走り抜いて半世紀 第2の職場・茨城で引退

北海道初の本格的なディーゼルカーとして旧国鉄に先んじて夕張鉄道（野幌－夕張本町間、一九七五年廃止）が導入、同鉄道廃線後は茨城県の鹿島鉄道（石岡－鉾田（ほこた）間、二七・二キロ）を第二の職場としていたキハ七一四形が三月いっぱい引退する。



鹿島鉄道の廃線に伴うもので、全長約二十メートルの大きな車体と頑丈さで新車に負けず通学生輸送などに重宝されてきたが、ついに解体される。

夕張鉄道ではキハ二五一形と呼ばれた同車は一九五三年製造。当時の流行の最先端をいく二枚窓で、車両の正面が流線形なのが特徴だ。七六年から鹿島鉄道に引き取られていた。

「昭和二十年代の古いディーゼルカーの雰囲気をよく残しており、鉄道ファンにも一番人気。北海道育ちだからか本当に働き者だった」と鹿島鉄道の関係者は話している。

<写真：夕張鉄道時代の特徴を色濃く残し、通学生を乗せて活躍を続けるキハ714形＝30日午前8時すぎ、茨城県石岡市の鹿島鉄道東田中駅（伊丹恒撮影）>